

【導入事例】神戸デジタル・ラボ、Backlogで開発案件の立ち上げ工数を60分から1分へ — 情報システムとDX推進を担う組織「KDX」が社内外をつなぐ業務基盤を構築 —

株式会社ヌーラボ（本社：福岡県福岡市、以下 ヌーラボ）が提供するプロジェクト・タスク管理ツール「[Backlog](#)」は、株式会社神戸デジタル・ラボ（本社：兵庫県神戸市、以下 KDL）に導入され、社内外を支える業務基盤として活用されています。

KDLは、オンプレミス型ツールの運用負荷を解消するために10年以上前にBacklogを導入。以来、情報システム部門とDX推進部門を統合した組織「KDX」を中心に、部署横断での情報共有や社外パートナー・顧客との協働へと活用範囲を広げ続けています。



※以下、事例取材記事『[工数を「60分→1分」に。Backlogが社内外をつなぐ業務インフラになるまで](#)』よりコメントを抜粋・編集・再構成。

■ 「Backlog」を導入した背景

KDLは、システム開発や情報セキュリティサービスを主軸に、DXコンサルティングやAI活用支援を展開するIT企業です。

同社では自社でサーバーを構築・運用するオンプレミス型のプロジェクト管理ツールを使用していました。しかし、新しい開発案件が立ち上がるたびに、サーバーの準備やツールのインストール、その後のアップデートまで個別に管理する必要があり、案件が増えるほど運用負荷が高まっていました。こうした状況を受け、運用負荷の軽減と利用拡大を見据えBacklogを導入しました。

■ 「Backlog」を活用した取り組み

APIによる立ち上げ自動化で、工数が60分→1分へ

APIを活用し、Backlogプロジェクトの生成から管理台帳への記録までを一連のフローとして自動化。これにより、インフラ管理の工数が削減され、約60分を要していた立ち上げ作業を1分に短縮しました。

標準搭載のGit/SVNで、ソース管理まで一つの環境で完結

標準搭載のGitやSVNを活用し、タスク管理とソースコード管理を一つの環境で実現。変更履歴を管理する外部システムとの連携が不要となり、開発現場の運用負荷の軽減につながりました。

部署横断から社外連携まで、社内外に広がる活用

品質管理部門では、開発案件の状況をBacklogで横断的に確認し、進捗の遅れやトラブルの兆候を早期にフォローしています。また、社内向け業務管理システムの開発でも部署横断で活用されているほか、社外パートナーや顧客との協働においても情報をBacklog内に集約し、社内外をまたいだ情報共有を支えています。

■ 株式会社神戸デジタル・ラボ 担当者コメント



左から経営戦略本部KDXチーム チームオーナー明田氏、経営戦略本部KDXチーム 武富氏、勇美氏

Backlogを使い始めて10年以上が経ち、今では業務に欠かせない存在です。ユーザー数もプロジェクト数も無制限でソース管理まででき、管理者目線では運用負荷が一切なくなったことが何よりのメリットです。業務の引き継ぎの際にも、過去の経緯やデータがBacklogに残っているため、情報を探すだけで時間を費やすことがなくなりました。

今後は、KDXチームが担当するプロジェクトのお客様からの問い合わせ窓口を一本化し、業務の属人化を解消したいと考えています。あわせてバックオフィス部門への浸透も進め、全社的にさらに活用を広げていきたいです。

■ 株式会社ヌーラボについて

代表者：橋本正徳

本社：福岡県福岡市中央区大名一丁目8-6 HCC BLD. 2・6・7F

東京事務所：東京都港区芝大門二丁目1番16号 +SHIFT SHIBADAIMON B1F

コーポレートサイト：<https://nulab.com>

採用サイト：<https://careers.nulab.com/>